

消防団の沿革

明治24年	加古郡高砂町において、中須善吾氏を組頭とした北部消防組、川西伊八氏を組頭とした南部消防組が組織される。
明治27年	勅令「消防組規則」公布
明治27年 6月23日	「高砂町水火災消防組手当及び扶助料支給規程」が制定され、公設消防組が誕生する。
明治37年	曾根町南吉松氏を組頭とした私設消防組が設置される。
明治44年 2月 2日	曾根町の私設消防組が県知事から公設消防組設置許可を受け、私設消防組時代の設備一式を公設消防組に引き継ぐとともに、新たにポンプ庫を建設し腕用ポンプ1台を購入、また警鐘台1基建設する。
大正初期	その他の地域における私設消防組が公設消防組へと順次発展していった。
昭和10年 9月	高砂町南本町に「高砂消防会館」を建設する。 鉄筋コンクリート造り2階建、階下は車庫、2階は会議室、屋上はベランダ及び監視人室付の警鐘台を設置する。
昭和14年 1月14日	「警防団」(勅令第20号)公布 この勅令により消防組は廃止となり、防空業務にも従事する警防団として改組する。
昭和14年 4月 1日	消防組を警防団に名称変更する。
昭和22年 5月 1日	「消防団令」の公布に伴い、警防団から消防団へと名称変更する。
昭和23年 3月 7日	自治体消防発足。高砂町消防本部(署)が発足するとともに消防団も郷土愛護に基づく組織に生まれ変わる。
昭和29年 7月 1日	加古郡高砂町・荒井村・印南郡伊保村及び曾根町の4箇町村が合併して「高砂市」として市制施行に伴い、消防団も1市4団制となる。
昭和31年 9月30日	印南郡米田町の一部及び阿弥陀村が合併され、1市6団制となる。
昭和32年 3月10日	印南郡北浜村が合併され、1市7団制となる。
昭和34年 4月 1日	消防団員定員740人と定める。
昭和37年 4月 1日	指揮系統の一元化と機能的運用を図るため消防団の統合が実施され、初代消防団長に玉野大治郎氏を擁立し、「高砂市消防団」として1市1団7分団37班体制となり、消防団員定員を700人と定める。
昭和51年 4月 1日	消防団員定員を710人と定める。
昭和55年 4月 1日	2代目消防団長として松田徳一氏が就任する。 1市1団7分団38班体制とする。
平成 4年 4月 1日	3代目消防団長として大内忠義氏が就任する。
平成 9年 2月20日	4代目消防団長として田中利昭氏が就任する。
平成13年 4月 1日	1市1団7分団39班体制とする。
平成16年 4月 1日	消防団員定員を675人と定める。
平成19年 4月 1日	5代目消防団長として山本良樹氏が就任する。
平成19年 4月 1日	各分団の部長職を3人体制とする。
平成22年 4月 1日	6代目消防団長として作間尚義氏が就任する。
平成26年 7月 1日	7代目消防団長として石原和彦氏が就任する。
平成31年 4月 1日	8代目消防団長として伊藤定雄氏が就任する。
令和 3年 4月 1日	高砂市として初めて女性消防団員5名を採用する。

団員等の表彰状況

(令和2年度)

区 分		人数等
消防庁長官表彰	永年勤続功労章	3
日本消防協会会長表彰	功績章	1
	精績章	2
	勤続章	4
兵庫県知事表彰	永年勤続功労章	6
	家族の賞	7組
兵庫県消防協会会長表彰	功績章	2
	精績章	3
	勤続章	18
	精勤章	7
	家族の賞40年	1組
	家族の賞30年	2組
市長表彰	定例表彰	15
	家族の賞	6組
消防長表彰	定例表彰	20
消防団長表彰	定例表彰	25

団員の階級別人員

(令和3年4月1日現在)

階級 分団名	階級							
	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計
団本部	1	2					5	8
高砂分団			1	2	3	5	58	69
荒井分団			1	2	3	5	63	74
伊保分団			1	2	3	6	122	134
曾根分団			1	2	3	5	63	74
米田分団			1	2	3	6	84	96
阿弥陀分団			1	2	3	8	109	123
北浜分団			1	2	3	4	79	89
合 計	1	2	7	14	21	39	583	667

団員の階級別在職年数

(令和3年4月1日現在)

階級 勤続年数	団 長	副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計
5年未満							120	120
5年以上 10年未満						1	156	157
10年以上 15年未満					1	9	132	142
15年以上 20年未満					4	14	45	63
20年以上 25年未満				1	2	9	65	77
25年以上 30年未満			2	7	9	4	44	66
30年以上	1	2	5	6	5	2	21	42
合 計	1	2	7	14	21	39	583	667

団員の在籍年数

(令和3年4月1日現在)

分団名 勤続年数	団本部	高 砂	荒 井	伊 保	曾 根	米 田	阿弥陀	北 浜	合 計
5年未満	5	8	15	30	19	15	15	13	120
5年以上 10年未満		8	21	35	18	23	34	18	157
10年以上 15年未満		10	17	36	10	21	30	18	142
15年以上 20年未満		9	2	9	3	10	19	11	63
20年以上 25年未満		6	7	15	8	13	15	13	77
25年以上 30年未満		12	8	5	9	11	7	14	66
30年以上	3	16	4	4	7	3	3	2	42
合 計	8	69	74	134	74	96	123	89	667

団員の年齢

(令和3年4月1日現在)

区分 分団名	年 齢 別										合計	平均 年齢
	19歳 以下	20～ 24	25～ 29	30～ 34	35～ 39	40～ 44	45～ 49	50～ 54	55～ 59	60歳 以上		
団本部			1	2		1	1			3	8	46.5
高 砂		1	4	6	4	9	12	9	7	17	69	48.3
荒 井	3	7	4	6	12	18	15	4	4	1	74	39.6
伊 保		3	14	14	27	30	28	7	8	3	134	40.5
曾 根	1	3	10	12	10	16	9	10	3		74	39.1
米 田		4	8	10	13	22	14	13	8	4	96	42.6
阿弥陀			2	6	15	27	39	24	7	3	123	45.4
北 浜			7	12	18	12	23	14	3		89	41.9
合 計	4	18	50	68	99	135	141	81	40	31	667	42.5

教養・訓練

(令和2年度)

訓練・研修会等	参加人員
高砂市林野火災訓練	65

災害活動状況

(令和2年度)

災害種別	出動件数	出動人員
火災活動	9	582
水防活動	0	0
その他活動	3	70

施設及び機械器具の状況

(1) 消防分団車庫及び詰所

(令和3年4月1日現在)

区分 分団名	所在地	構造	築年月日	敷地面積	延面積
高砂	高砂町材木町1210	補強コンクリート ブロック造2階建	S55. 1.31	104.19㎡	63.94㎡
荒井	荒井町東本町13-22	〃	H 4.12.20	258.97㎡	100.19㎡
伊保	伊保1丁目1-27	〃	H 3.12.20	119.77㎡	84.69㎡
曾根	曾根町2243-13	〃	S63.11. 5	110.07㎡	100.32㎡
米田	米田町米田927-15	〃	H 5.12.10	355.92㎡	101.76㎡
阿弥陀	阿弥陀町阿弥陀80	〃	H 7.12. 5	236.86㎡	98.31㎡
北浜	北浜町北脇74-3	〃	S55. 1.31	203.70㎡	110.21㎡

(2) 消防ポンプ自動車

(令和3年4月1日現在)

区分 分団名	型式		配置年月日	級別	排気量	燃料
団本部	軽四	ニッサン GBD-U72V	H21. 2.28	—	650	ガソリン
	救助資機材 搭載型車両	いすず BKG-NHS85A	H22. 3.29	—	2,990	軽油
高砂	CD-I型	いすず KR-NKR81GN	H15. 3.17	A-2	4,770	軽油
荒井	CD-I型	日野 PD-XZU334M	H17.12. 9	A-2	4,000	軽油
伊保	CD-I型	日野 PD-XZU334M	H16.12. 3	A-2	4,000	軽油
曾根	CD-I型	日野 PD-XZU334M	H16.12. 3	A-2	4,000	軽油
米田	CD-I型	日野 K-K-XZU331M	H15.12. 3	A-2	4,890	軽油
阿弥陀	CD-I型	トヨタ BDG-XZU334	H22.11.14	A-2	4,000	軽油
北浜	CD-I型	日野 PD-XZU334M	H16.12. 3	A-2	4,000	軽油

(3) 災害用資機材一覧表

(令和3年4月1日現在)

資機材名	車庫							
	高砂	荒井	伊保	曾根	米田	阿弥陀	北浜	合計
両口ハンマー	10	10	10	10	10	10	10	70
バール(大)	10	10	10	10	10	10	10	70
のこぎり(小)	10	10	10	10	10	10	10	70
ボルトクリッパー	1	1	1	1	1	1	1	7
チェーンソー	1	1	1	1	1	1	1	7
油圧ジャッキ	1	1	1	1	1	1	1	7
発電機	1	1	1	1	1	1	1	7
担架	3	3	3	3	3	3	3	21